平成２７年度　千葉市青少年問題協議会　議事録

１　日　時　　平成２７年９月３日（木）午後３時００分～午後５時３０分

２　場　所　　千葉市役所　８階　正庁

３　出席者

（１）委　員

久保　陽子 委員、寺村　堅志　委員、佐藤　比呂明 委員、井出　明夫 委員、山田　純子 委員、井谷　芳明 委員、布施　春香 委員、小川　日出男 委員、磯邉　聡 委員、日暮　規夫 委員、多田　裕香子 委員、小山　こずえ 委員、野本　まり子 委員

（２）事務局

【こども未来局】石井　忍 こども未来局長、松浦　良恵 こども未来部長

【健全育成課】　藤田　孝明　課長、荒井　健二 課長補佐

【精神保健福祉課】佐藤　ひとみ　課長

【青少年サポートセンター】橋本　高良 所長補佐

４　報　告

（１）「千葉市こどもプラン」について

（２）子ども・若者支援協議会について

（３）子ども・若者総合相談センター「Link」の相談状況

（４）「家庭教育応援します～親ナビ～」の作成について

（５）青少年の日フェスタについて

５　議　題

（１）ひきこもりについて

（２）千葉市青少年問題協議会健全育成功労者表彰について

６　議事の経過

※磯邉聡会長が進行を務める。

（１）報告事項について

ア．４　報告（１）

磯邉　会長

「千葉市こどもプラン」について事務局に説明を求める。

藤田　健全育成課長

「千葉市こどもプラン」について説明をする。

磯邉　会長

成人年齢の引き下げの問題等もあるが、「千葉市プラン」では「こども」の定義はどうなるのか。

藤田　健全育成課長

「こども」の呼称については、乳児から青少年までの全般を指している。

磯邉　会長

青少年については３０歳代まで含めている。また、ひきこもりについても３０歳代までを対象としている。

イ．４　報告（２）、（３）

磯邉　会長

「子ども・若者支援協議会の運営について」と「子ども・若者総合相談センターLink の相談状況」について事務局に説明を求める。

藤田　健全育成課長

「子ども・若者支援協議会の運営について」と

橋本　青少年サポートセンター所長補佐

「子ども・若者総合相談センターLink の相談状況」について説明をする。

磯邉　会長

Link のスタッフ構成はどうなっているか。

橋本　青少年サポートセンター所長補佐

担当所員が１名、相談員が２名である。

磯邉　会長

同行支援などのアウトリーチを行っているが、相談員は２名で足りているか。

橋本　青少年サポートセンター所長補佐

訪問相談は、担当所員と２名で行っているので、対応できないこともある。

磯邉　会長

相談件数は増加してきているが、スタッフ構成は変わっていない。スタッフは開設当初から変わらないのか。

橋本　青少年サポートセンター所長補佐

相談員のうち１名は、開設後１年で交代している。

磯邉　会長

相談事例を蓄積するとともに、良い相談が継続できるようスタッフの研修等について心配りをお願いしたい。

相談の中に、ひきこもりや病気の案件が目立つようになってきた。

山田　委員

単純な形の不登校は少なくなくなってきた。いろいろなことが重なっていて、コミュニケーションがうまくとれなかったり、感情のコントロールがうまくできなかったり、親子関係がよくなかったりする人が増えてきている。単純に時間を待ったり、サポートするだけではあまりうまくいかないことが増えてきているので、皆さんとより一層連携し、情報共有してより適切なところにむすびつける。１回の診察や診断でははっきりしないので継続・情報共有をして対応していくことが必要になってきている。問題が複雑で難しくなってきており、すぐに解決はしなくなってきている。

磯邉　会長

不登校・ひきこもりは症状であり、背景が何かということが大切である。背景に発達の問題があることが増えてきた。

布施　委員

ＰＴＡの方から、子どもがいじめにあっていて、いろいろサポートを受けて良くなって登校するが、学校では過呼吸になってしまい通えなかった。学校の先生ともいろいろ相談をしたがあまり情報が得られず、PTA からの情報でサポートセンターに相談に行ったことで糸口が見え、今では、やっと学校に通えるようになった、という話があった。からだに症状が表れてしまう子どもが多くなっていると感じている。

磯邉　会長

総務省の調査では、中学・高校で不登校、高校中退だった人は、２０歳年齢ではそうでない人より７倍、ニートになっているとのデータがある。不登校の子は将来的なひきこもりの予備軍の可能性が高い。不登校の子を学校復帰させるだけがゴー

ルではなく、それぞれに必要とされる支援をしていく工夫が必要である。

久保　委員

発達の段階で親が問題意識をもって、いろいろな機関に相談して前向きに取り組めるとよいと思う。

磯邉　会長

子ども・若者総合相談センターＬｉｎｋでは、就学前から３０歳代までを対象に、早期の段階での支援をしているので、引き続き丁寧な相談をお願いしたい。

ウ．４　報告（４）

磯邉　会長

「家庭教育応援します～親ナビ～」の作成について事務局に説明を求める。

藤田　健全育成課長

「家庭教育応援します～親ナビ～」の作成について説明をする。

磯邉　会長

「携帯電話に関する記載内容の見直し」は、どのような変更を考えているのか。

藤田　健全育成課長

最近、ＳＮＳの利用によるトラブルが増えてきており、その危険性について具体的に知らせたい。

磯邉　会長

親が子どもに携帯電話を持たせるときには、発達段階に応じて家庭でルールを決めた方が良い。資料には、家庭のルールの例が掲載されると良い。

日暮　委員

中学１年生用のものには、いじめに関する記載があるが、いじめは低年齢化している気がするので、小学生版にも記載するのは良いと思う。

磯邉　会長

「いじめ防止対策推進法」にいじめに関して学校の責務と保護者の責務も記載されている。家庭教育資料に掲載されることは良いと思う。

布施　委員

いじめは、いじめられている側といじめている側との認識が異なっていることがある。からかっているだけと言っても、相手が傷ついていることを感じることができるようにしないといけない。

６年生になると多くの子がスマートホンを持っているらしい。動画の投稿、動画を撮ることが遊びになっている。投稿する側が善悪の判断がつかないと危険である。

友人への誹謗中傷だけではなく、動画を投稿することの危険性を認識させないといけない。

磯邉　会長

いじめの定義や通信機器使用の危険性については、具体的な内容を記載して保護者に啓発するのも一つの方法である。

エ．４　報告（５）

磯邉　会長

「青少年の日フェスタ」について事務局に説明を求める。

藤田　健全育成課長

「青少年の日フェスタ」について説明をする。

（２）協議事項について

ア．５　議題（１）

磯邉　会長

議題（１）「ひきこもりについて」事務局に説明を求める。

藤田　健全育成課長

「ひきこもり・ニート（若年無業者）等に関する現状・支援について」説明をする。

佐藤　精神保健福祉課長

「ひきこもり地域支援センターについて」説明をする。

日暮　委員

ひきこもり地域支援センターの開所日が週５日、月から金とのことであるが、相談する親などは土日が良い方もいるがどうなのか。

佐藤　精神保健福祉課長

開設場所の「こころの健康センター」の開所日に合わせている。今後、状況よっては開設時間や曜日の変更等を検討する場合もあるが、まずは、月から金の平日に開所することになるのでご理解いただきたい。

磯邉　会長

ひきこもり地域支援センターは、「Ｌｉｎｋ」のような愛称はつくらないのか。

佐藤　精神保健福祉課長

名称を公募することも検討したが、国の指針で、市民がひきこもりの相談をどこにしたらよいかすぐ分かる簡単な名称にするとよいとのことだったので「ひきこもり地域支援センター」とした。

磯邉　会長

Ｌｉｎｋとの棲み分け（役割分担）についてはどのように考えているか。

佐藤　精神保健福祉課長

すでにＬｉｎｋから「こころの健康センター」や「健康課」に相談しているひきこもりの事例が中心となる。また、対象年齢を１８歳以上としており、ひきこもりの中でも、仕事のできる人の掘り起こしをして生活困窮者にならないようにすることを最終的な目的として、関係機関に橋渡しをするためのセンターである。学童期については引き続きＬｉｎｋ等で支援していただき、ひきこもり地域支援センターの必要があればつないでいただくことになる。

山田　委員

相談については、支払い能力がある場合は有料にしてもいいのではないか。有料にすることにより、相談者の意識が高まることもある。また、有料で相談を行っている医療機関や他の関係機関との兼ね合いも考慮できるといいのではないか。

アウトリーチの際、暴力の問題や、病気がある場合などがあるので、どう対応するのか考え、いろいろな機関と連携してほしい。

佐藤　精神保健福祉課長

現状では料金の徴収は難しいが、他の事例を調べてみる。

アウトリーチ等で困難なケースがあった場合は、相談員や事業者を支援していくためにもこころの健康センターと連携するなど努力をしていく。

磯邉　会長

相談時の課金については、メリット、デメリットについて良く考え、お互いにコスト意識を持って、支援していくことが大切である。

ひきこもり地域支援センターは、Ｌｉｎｋと同じような相談ではなく、ひきこもりの人たちの居場所となる中間施設として機能があると良い。そして就労を目的とし

た「サポートステーション」等につながっていくと、千葉市としても段階的なメニューがそろってくるのではないか。ニーズ調査ができると良い。

小山　副会長

新聞で、不登校のためのフリースクールの料金が家庭の負担になっているという記事を見たので、料金徴収については相違を感じるが新しい視点だとは思う。また、佐賀県で１２年に渡りひきこもりのアウトリーチをしているＮＰＯ法人が、夜、ひきこもりの方に対応するナイトケアをして成果を上げていることをテレビ番組で知った。行政対応で難しい部分は、民間と協働してやっていけると良いと思う。

イ．５　議題（２）

磯邉　会長

議題（２）「千葉市青少年問題協議会青少年健全育成功労者表彰」について小山副会長に説明を求める。

小山　副会長

「千葉市青少年問題協議会青少年健全育成功労者表彰」について説明をする。

磯邉　会長

「千葉市青少年問題協議会青少年健全育成功労者表彰式」の主催者としてご協力願いたい。

（３）その他

ア．６　その他

磯邉　会長

その他「川崎市中学生死亡事件に係る専門委員からの提言」等について事務局に説明を求める。

健全育成課職員

その他「川崎市中学生死亡事件に係る専門委員からの提言」等について説明をする。

磯邉　会長

協議事項等がすべて終了し、審議終了。